

氏 名 澁谷 泰秀 (SHIBUTANI Hirohide)

所 属 社会学部社会学科

職 種 教授

生年月日 1959 年 2 月 1 日

**[学 歴]**

1977 年 3 月 青森県立青森高等学校卒業

1981 年 3 月 順天堂大学体育学部健康学科卒業

1983 年 3 月 順天堂大学体育学部大学院修士課程・環境衛生学専攻 卒業

1985 年 5 月 University of South Florida (Master of Art Program 卒業:  
Master of Art (教育学修士)取得)

1994 年 12 月 University of South Florida (Doctor of Philosophy Program 卒  
業

Doctor of Philosophy (学術博士・計量心理学) 取得)

**[学 位]**

1994 年 12 月 Doctor of Philosophy (University of South Florida)

**[職 歴]**

1990 年 4 月 青森大学社会学部専任講師

1995 年 4 月 青森大学社会学部助教授

2006 年 4 月 青森大学社会学部教授

2009 年 4 月 青森大学社会学部・社会学科長

2012 年 4 月 青森大学・学長補佐

2016 年 4 月 青森大学・学長補佐・社会学部長 兼任

2017 年 4 月 青森大学・副学長

2017 年 4 月 学校法人青森山田学園理事・評議員 (現在に至る)

2022 年 4 月 青森大学・学監・附属総合研究所長 兼任

2023 年 4 月 青森大学・学長 (現在に至る)

**[受 賞]**

特記事項なし

**[所属学会]**

日本世論調査協会

## **[教育活動]**

### **[担当科目]**

教育方法学、教育原理

### **[教育指導に関する特記事項]**

教職科目（教育方法学等）を担当して 32 年目であるが、最近の学生に対しては講義だけでは十分な学習効果が望めない為、パワーポイントや演習型のハンドアウトを自作し、ある程度講義が進行した段階で学生がその講義の復習をハンドアウトにショートアンサーを書き込む事でできるようにしている。また、講義後に学生が自宅で学習できるように、ハンドアウトの内容を工夫している。しかし、講義中に全ての学生が少なくともショートアンサーを要求された部分については理解できるのが利点である。学生の授業評価で効果を確認している。

## **[研究活動]**

### **[研究テーマ]**

(1) 項目反応理論、(2) 詐欺被害者の心理プロセス、(3) フレーミング効果のメカニズム、(4) 生活の質と高齢者の意思決定方略、(5) 質問紙と Web を用いた社会調査法の比較及び計量分析、(6) 脳の血流と運動及び心理機能との関連性

## **[研究活動]**

### **[研究テーマ]**

- (1) 項目反応理論
- (2) 詐欺被害者の心理プロセス
- (3) フレーミング効果のメカニズム
- (4) 生活の質と高齢者の意思決定方略
- (5) 質問紙と Web を用いた社会調査法の比較及び計量分析
- (6) 脳の血流と運動及び心理機能との関連性

## **[著書、論文、総説] 過去 15 年程度**

著書・書籍の章

- ・ 澁谷, 泰秀 (2024). 特殊詐欺診断アプリを用いた詐欺被害予防活動. In 越智, 啓太 (編), *特殊詐欺の心理学*(pp. 72–101). 誠信書房.

---

## 査読付き論文

- Takebayashi, M., Mizota, Y., Namba, M., Kaneda, Y., Takebayashi, K., Shibutani, H., & Koyama, T. (2024). Evaluation of nudge-based notification for follow-up examinations in health check-ups targeting occupational health staff and undiagnosed workers: A randomized controlled trial. *Cureus*. <https://doi.org/10.7759/cureus.64756>
  - Takebayashi, M., Namba, M., Koyama, T., Kaneda, Y., Kawaguchi, H., Uemura, C., Shibuya, M., Murakami, S., Fukuda, H., & Shibutani, H. (2024). Impact on step count by commitment-based health application. *PLOS ONE*. <https://doi.org/10.1371/journal.pone.0305765>
  - Takebayashi, M., Kaneda, Y., Ouchi, M., Sensui, T., Yasaka, K., Namba, M., Takebayashi, K., Shibutani, H., & Koyama, T. (2024). Enhancing interest in smoking cessation programs with nudge-incorporated flyers: A randomized controlled trial among occupational health staff and workers in Japan. *Cureus*. <https://doi.org/10.7759/cureus.64756>
  - Shibutani, H., Masuda, S., Murakami, F., & Yoshimura, H. (2023). A new type of screening necessity we face with online surveys: Evaluating the function of instructed response items for identifying inattentive respondents. *Journal of the Multidisciplinary Research Center*, 24(2), 1–12.
  - Hiura, M., Shirai, Y., Shibutani, H., Funaki, A., Takahashi, K., & Katayama, Y. (2022). Estimation of cerebral hemodynamics and oxygen metabolism during various intensities of rowing exercise: An NIRS study. *Frontiers in Physiology*. <https://doi.org/10.3389/fphys.2022.828357>
  - 渡部, 諭, & 澁谷, 泰秀 (2021). 高速検約決定木による特殊詐欺抵抗力の判定. *データ分析の理論と応用*, 10(1), 1–6.
  - Watanabe, S., & Shibutani, H. (2010). Aging and decision making: Differences in susceptibility to the risky-choice framing effect between older and younger adults in Japan. *Japanese Psychological Research*, 52(3), 163–174. <https://doi.org/10.1111/j.1468-5884.2010.00430.x>
  - Shibutani, H., & Watanabe, S. (2009). Risky-choice framing effect and risk-seeking propensity: An application of IRT for analyzing a scale with a very small number of items. *Journal of Aomori University and Aomori Junior College*, 32(2), 65–80.
-

## 大学紀要・総説等

- 澁谷, 泰秀, 関, 智子, 櫛引, 素夫, & 松本, 大吾 (2022). 大学の遠隔授業等の根本的改善に必要な視点－留学生への遠隔授業及び認知科学的視点－. *青森大学付属総合研究所紀要*, 23(2).
- 櫛引, 素夫, 松本, 大吾, & 澁谷, 泰秀 (2021). 青森大学におけるオンライン授業の課題と可能性－社会学部における実践から－. *青森大学付属総合研究所紀要*, 23(1), 11–21.
- 澁谷, 泰秀 (2020). 「高齢者の詐欺被害を防ぐしなやかな地域連携モデルの研究開発」の取り組み内容について. *国民生活研究*, 60(1), 29–51.
- 澁谷, 泰秀, & 吉村, 治正 (2020). 社会調査における測定誤差源としての感情置換：特殊詐欺に関する内閣府調査に焦点をあてて. *青森大学付属総合研究所紀要*, 20(1・2), 14–25.
- 渡部, 諭, & 澁谷, 泰秀 (2019). 詐欺脆弱性判定アプリを用いた特殊詐欺防止活動. *警察学論集*, 72(11), 112–135.
- 澁谷, 泰秀, 吉野, 諒三, 渡部, 諭, 角谷, 快彦, 藤田, 卓仙, 小出, 哲彰, 田中, 康裕, & 大工, 泰裕 (2019). 社会調査データに基づく特殊詐欺脆弱性判定の試み. *よろん 日本世論調査協会報*, 123, 40–49.
- 澁谷, 泰秀, & 渡部, 諭 (2019). 高齢者の詐欺脆弱性と生活の質との関連性：性別による関連性の相違. *青森大学付属総合研究所紀要*, 20(1・2), 30–38.
- 渡部, 諭, 岩田, 美奈子, 上野, 大介, 江口, 洋子, 小久保, 温, 澁谷, 泰秀, 大工, 泰裕, & 藤田, 卓仙 (2018). 高齢者の詐欺被害を防ぐしなやかな地域連携モデルの研究開発. *秋田県立大学ウェブジャーナルA (地域貢献部門)*, 5, 64–72.
- 渡部, 諭, 澁谷, 泰秀, & 鈴木, 康弘 (2017). PISA 2012 における特異項目機能の分析. *秋田県立大学総合科学研究彙報*, 18, 1–8.
- Shibutani, H., & Watanabe, S. (2010). An application of classical test theory, item response theory, and partially ordered scalogram analysis for evaluating the scalability of the risk-seeking propensity. *Journal of Aomori University and Aomori Junior College*, 33(2).
- 澁谷, 泰秀, & 渡部, 諭 (2009). 半球優位性とフレーミング効果およびQOL との関連性－高齢者と若年者との比較. *域社会研究*, 17, 41–69.

[学会発表]

2025 年

- Masuda, S., **Shibutani, H.**, Murakami, F., & Yoshimura, H. (2025, September 5). *An experimental examination on measurement error of the gender role questionnaire* (Poster). The 89th Annual Convention of the Japanese Psychological Association, Sendai, Japan.

#### 2024 年

- Masuda, S., **Shibutani, H.**, Murakami, F., & Yoshimura, H. (2024, September 6). *Influence of the “middle means typical” heuristic on happiness ratings* (Poster). The 88th Annual Convention of the Japanese Psychological Association, Kumamoto-jo Hall, Kumamoto, Japan.

#### 2023 年

- Masuda, S., **Shibutani, H.**, Murakami, F., & Yoshimura, H. (2023, September 17). *Influence of social desirability on responses regarding support for same-sex marriage: A comparison of direct questioning and the item count technique*(Poster; in Japanese). The 87th Annual Convention of the Japanese Psychological Association, Japan.

#### 2022 年

- Shibutani, H. (2022, September 3). 高齢者認知心理学者，詐欺脆弱性と詐欺犯罪に関する諸問題の検討. 日本犯罪心理学会第 60 回大会，名古屋大学（愛知県・名古屋市）.

#### 2019 年

- Shibutani, H. (2019, September 25). 高齢者認知心理学者，詐欺抵抗性に関する諸問題の検討：詐欺脆弱性判定から詐欺抵抗性の向上へ. 日本心理学会第 83 回大会，立命館大学（大阪府・茨木市）.

#### 2018 年

- Shibutani, H. (2018, September 25). 高齢者認知心理学者，データに基づいて特殊詐欺の原因を分析し対策を議論する：詐欺脆弱性判定の試み及び実用性の評価. 日本心理学会第 82 回大会，東北大学（仙台市）.
- Shibutani, H. (2018, November 9). 社会調査データに基づく特殊詐欺脆弱性判定の試み. 日本世論調査協会 2018 年度研究大会，同志社大学東京サテライトキャンパス.

#### 2017 年

- Kokubo, A., Shibutani, H., Yoshimura, H., & Watanabe, S. (2017, March 18). 社会調査における郵送による質問紙と Web アプリケーションの比較. 情報処理学会第 79 回全国大会，名古屋大学.

#### 2016 年

- Shibutani, H. (2016, July). A relationship between the vulnerability for bank transfer fraud and self-efficacy among elderly people. 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan.

#### 2015 年

- Yoshimura, H., & Shibutani, H. (2015, September 25). 項目のワーディングが尺度に及ぼす影響. 日本心理学会第 76 回大会, 名古屋大学.

#### 2014 年

- Watanabe, S., Shibutani, H., Yoshimura, H., & Kokubo, A. (2014, November 26). Analysis of personal networks maintained by the elderly in Japan. Asian Network for Public Opinion Research Annual Conference, Toki Messe Niigata.
- Watanabe, S., Shibutani, H., Yoshimura, H., & Kokubo, A. (2014, September 19). 高齢者の詐欺犯罪脆弱性についての taxometric 分析. 日本認知科学会第 31 回大会, 名古屋大学.
- Shibutani, H., Watanabe, S., Yoshimura, H., & Kokubo, A. (2014, August 31). 項目のワーディングが尺度に及ぼす影響: IRT と古典的テスト理論を用いた社会調査データの分析. 日本テスト学会第 12 回大会, 帝京大学.
- Kokubo, A., Shibutani, H., Yoshimura, H., & Watanabe, S. (2014, March 11). 郵送とマルチデバイス対応 Web システムによるハイブリッド社会調査の実証実験の解析. 情報処理学会第 76 回全国大会, 東京電機大学.

#### 2013 年

- Watanabe, S., & Shibutani, H. (2013, December 22). 高齢者の詐欺犯罪脆弱性に関する taxometric 分析. 人工知能学会研究会, 岩手県立大学.
- Watanabe, S., & Shibutani, H. (2013, September 23). 若年者および高齢者における振り込め詐欺被害傾向の相違について. 日本認知科学会第 30 回大会, 玉川大学.
- Shibutani, H., Watanabe, S., & Yoshimura, H. (2013, September 11). 高齢者のフレーミング効果と意思決定モード. 統計関連学会, 大阪大学.
- Watanabe, S., & Shibutani, H. (2013, September 5). Taxometric 分析を用いた振り込め詐欺に対する高齢者の脆弱性の検討. 日本行動計量学会第 41 回大会, 東邦大学.
- Kokubo, A., Shibutani, H., Yoshimura, H., & Watanabe, S. (2013, March 7). 社会調査のためのマルチデバイス Web アンケートシステムの開発. 情報処理学会第 75 回全国大会, 東北大学.
- Shibutani, H., & Watanabe, S. (2013, February 19). 詐欺犯罪被害傾向と意思決定モード. 認知心理学会高齢者心理研究部会第 7 回研究会, 明治学園大学.

## 2012 年

- Shibutani, H., & Watanabe, S. (2012, December 13). 高齢者における詐欺被害傾向と未来展望の関連性. 日本認知科学会第 29 回大会, 東北大学.
- Watanabe, S., & Shibutani, H. (2012, September 16). 高齢者の詐欺被害傾向と未来展望の検討. 日本行動計量学会第 40 回大会, 新潟県立大学.
- Watanabe, S., & Shibutani, H. (2012, September 11). 高齢者の詐欺被害傾向と未来展望. 日本心理学会第 76 回大会, 専修大学.

## 2011 年

- Shibutani, H., & Watanabe, S. (2011, September 5). 回答者のリスク志向性がフレーミング効果に及ぼす影響の評価. 統計関連学会連合大会, 九州大学.
- Watanabe, S., & Shibutani, H. (2011, September 14). 積極性効果が高齢者のウェブ探索行動とウェブ上の意思決定に与える影響. 日本行動計量学会第 39 回大会, 富山理科大学.

## 2010 年

(すべて国内学会・査読なし。ただし統計関連学会連合大会は要旨集に簡易査読あり)

- Shibutani, H., & Watanabe, S. (2010, September 5). 項目反応理論による情報関数とクロンバックの  $\alpha$  による尺度の信頼性評価. 統計関連学会連合大会, 早稲田大学.
- Watanabe, S., & Shibutani, H. (2010, September 14). 意思決定方略に対する年齢の影響と生活の質(QOL)調査データの分析. 日本行動計量学会第 38 回大会, 埼玉大学.
- Shibutani, H., & Watanabe, S. (2010, March 28). 社会調査における測定と誤差 - 計量心理学的視点 -. Japanese General Social Survey Study Session, 大阪商科大学.
- Watanabe, S., & Shibutani, H. (2010, March 27). 意思決定方略における年齢による相違と生活の質(QOL). 日本認知心理学会高齢者心理研究部会第 4 回研究会, 東京都健康長寿医療センター研究所.

## 【外部研究費取得状況（過去 10 年程度）】

### 1. 文部科学省 科学研究費助成事業（基盤研究 C）

研究代表者：日浦

研究分担者：澁谷泰秀

課題名：「高強度運動時の脳血流酸素代謝機構と血中 exerkines の関連

性の解明：PET 研究」

期間：2024 年 4 月～2027 年 3 月

配分額：4,800 千円（総額）

2. 文部科学省 科学研究費助成事業（基盤研究 C）

研究代表者：澁谷泰秀

課題名：「社会心理学を応用した詐欺被害予防の研究」

期間：2023 年 4 月～2026 年 3 月

配分額：4,600 千円（総額）

3. 共同研究（カゴメ株式会社）

研究代表者：澁谷泰秀

共同研究者：竹林正樹（客員教授）

課題名：「野菜摂取量推定装置の測定を促進するための行動経済学的検討」

期間：2022 年 4 月～2023 年 3 月

配分額：1,000 千円（総額）

4. 文部科学省 科学研究費助成事業（基盤研究 B）

研究代表者：吉村治正

研究分担者：澁谷泰秀

課題名：「社会学と社会心理学の協働によるウェブ調査の偏り補正方法の研究」

期間：2022 年 4 月～2025 年 3 月

配分額：19,950 千円（総額）

5. 文部科学省 科学研究費助成事業（基盤研究 B）

研究代表者：吉村治正

研究分担者：澁谷泰秀

課題名：「内閣府世論調査の測定誤差の研究」

期間：2018 年 4 月～2021 年 3 月

配分額：19,850 千円（総額）

6. JST/RISTEX 研究開発プロジェクト

研究代表者：渡部諭

青森フィールド代表：澁谷泰秀

課題名：「高齢者の詐欺被害を防ぐしなやかな地域連携モデルの研究開発」

領域：「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」

期間：2017 年 10 月～2021 年 3 月

配分額：24,000 千円（青森大学配分総額）



**7. 文部科学省 科学研究費助成事業（基盤研究 C）**

研究代表者：澁谷泰秀

課題名：「高齢者の生活の質を維持・向上させる自動的心理プロセスに基づいた認知習慣の研究」

期間：2015 年 4 月～2018 年 3 月

配分額：4,600 千円（総額）

**8. 文部科学省 科学研究費助成事業（基盤研究 C）**

研究代表者：吉村治正

研究分担者：澁谷泰秀

課題名：「社会学的知見に基づく Web 調査の代表性の分析」

期間：2015 年 4 月～2018 年 3 月

配分額：4,800 千円（総額）

**9. 文部科学省 科学研究費助成事業（基盤研究 C）**

研究代表者：小久保温

研究分担者：澁谷泰秀

課題名：「郵送調査と Web 調査のハイブリッド調査から完全 Web 調査への移行に関する研究」

期間：2014 年 4 月～2016 年 3 月

配分額：4,600 千円（総額）

**10. 日工組社会安全財団 研究助成**

研究代表者：渡部諭（秋田県立大学）

研究分担者：澁谷泰秀

課題名：「振り込め詐欺脆弱性についての高齢者の認知特性に関する taxometric 分析」

期間：2014 年 4 月～2016 年 3 月

配分額：2,700 千円（総額）

**11. 公益財団法人 大川情報通信基金研究助成**

研究代表者：澁谷泰秀（青森大学）

課題名：「CASM を応用した Web 社会調査における PC・タブレット・スマホ・携帯電話を用いた反応の相違に関する研究」

期間：2014 年 4 月～2015 年 3 月

配分額：1,000 千円（総額）

**12. 文部科学省 科学研究費助成事業（基盤研究 C）**

研究代表者：柏谷至

研究分担者：澁谷泰秀

課題名：「環境配慮行動における文化的フレームと意思決定モデルと

の統合的アプローチ」

期間：2012 年 4 月～2015 年 3 月

配分額：4,800 千円（総額）

**13. 文部科学省 科学研究費助成事業（基盤研究 C）**

研究代表者：渡部諭

研究分担者：澁谷泰秀・吉村治正

課題名：「社会情動的選択性から見た高齢者のソーシャルネットワークの研究」

期間：2012 年 4 月～2015 年 3 月

配分額：4,680 千円（総額）

**14. 文部科学省 科学研究費助成事業（基盤研究 C）**

研究代表者：吉村治正

研究分担者：澁谷泰秀・渡部諭

課題名：「郵送・インターネットによる実験的な職歴調査の実施」

期間：2011 年 4 月～2014 年 3 月

配分額：5,200 千円（総額）

**15. 文部科学省 科学研究費助成事業（基盤研究 C）**

研究代表者：澁谷泰秀

研究分担者：吉村治正・渡部諭

課題名：「高齢者の社会情動的選択性とリスク志向性が及ぼす生活の質への影響」

期間：2011 年 4 月～2014 年 3 月

配分額：4,680 千円（総額）

**16. 公益財団法人 三菱財団 研究助成**

研究代表者：澁谷泰秀

研究分担者：渡部諭

課題名：「高齢者犯罪を防止するための再帰属プログラムの開発・研究」

期間：2009 年 11 月～2012 年 10 月

配分額：1,800 千円（総額）

**17. 公益財団法人 三井住友財団 研究助成**

研究代表者：渡部諭

研究分担者：澁谷泰秀

課題名：「振り込め詐欺被害に遭いやすい高齢者の認知バイアスの研究－社会情動的選択性理論からの認知心理学的研究－」

期間：2011 年 4 月～2013 年 3 月

配分額：600 千円（総額）

**18. 文部科学省 科学研究費助成事業（基盤研究 C）**

研究代表者：渡部諭（東北芸術工科大学）

研究分担者：澁谷泰秀

課題名：「高齢者の意思決定特性と QOL との関係の研究」

期間：2008 年 4 月～2011 年 3 月

配分額：4,680 千円（総額）

**19. 財団法人 吉田秀雄記念事業財団 研究助成**

研究代表者：渡部諭（青森大学→東北芸術工科大学）

研究分担者：澁谷泰秀

課題名：「社会情動的選択理論に基づく高齢者のウェブメディア・リテラシーに関する研究－情動広告が高齢者に与える影響－」

期間：2009 年 4 月～2011 年 3 月

配分額：3,424 千円（総額）

**20. 財団法人 電気通信普及財団 研究助成**

研究代表者：渡部諭（青森大学→東北芸術工科大学）

研究分担者：澁谷泰秀

課題名：「高齢者のウェブサービスとフレーミング効果－高齢者ネットリテラシー向上に必要な要件の検討－」

期間：2008 年 4 月～2011 年 3 月

配分額：1,200 千円（総額）